

**製品名: RUNX2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab17443**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット、その他
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	56kDa

**抗原情報**

遺伝子名	RUNX2 RUNX2; AML3; CBFA1; OSF2; PEBP2A; Runt-related transcription factor 2; Acute myeloid leukemia 3 protein; Core-binding factor subunit alpha-1; CBF-alpha-1; Oncogene AML-3Osteoblast-specific transcription factor 2; OSF-2; Polyomavirus enhancer-binding protein 2
別名	alpha A subunit; PEA2-alpha A; PEBP2-alpha A; SL3-3 enhancer factor 1 alpha A subunit; SL3/AKV core-binding factor alpha A subunit
遺伝子 ID	860.0
SwissProt ID	Q13950
免疫原	抗血清はヒト RUNX2 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 201-

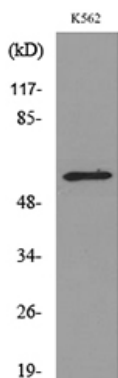
## 背景

この遺伝子は転写因子 RUNX ファミリーに属し、Runt DNA 結合ドメインを持つ核タンパク質をコードします。このタンパク質は骨芽細胞の分化と骨格形成に必須であり、骨格遺伝子発現に関与する核酸や調節因子の足場として機能します。このタンパク質は単量体として、あるいはより親和性の高いヘテロ二量体複合体のサブユニットとして DNA に結合します。コードされているタンパク質の N 末端領域には、トリヌクレオチド反復伸長の可能性のある領域が 2 つ存在し、これらの変異を含むこの遺伝子の変異は、骨形成障害である鎖骨頭蓋骨異形成症 (CCD) と関連付けられています。異なるタンパク質アイソフォームをコードする転写バリエーションは、代替プロモーターや選択的スプライシングの使用によって生じます。[RefSeq 提供、2016 年 7 月]、疾患: RUNX2 遺伝子の欠損は、鎖骨頭蓋骨異形成症 (CCD) [MIM:119600]の原因です。CCD は、浸透率が高く、表現度が多様な常染色体優性骨格疾患です。内軟骨性骨形成および膜内骨形成の障害が原因です。典型的な特徴としては、鎖骨の低形成 / 無形成、泉門開存、ワーミアン骨 (頭蓋冠の異常な骨化によって引き起こされる頭蓋骨の過剰形成)、過剰歯、低身長、その他の骨格変化などが挙げられます。RUNX2 の欠陥は、歯の異常とのみ関連する場合があります。ドメイン: C 末端のプロリン/セリン/スレオニンに富む領域は、標的遺伝子の転写活性化に必要であり、リン酸化部位を含む。機能: 骨芽細胞の分化と骨格形成に関与する転写因子。骨芽細胞の成熟、膜内骨化と軟骨内骨化の両方に必須。CBF は、マウス白血病ウイルス、ポリオーマウイルスエンハンサー、T 細胞受容体エンハンサー、オステオカルシン、オステオポンチン、骨シアロタンパク質、 $\alpha 1(I)$ コラーゲン、LCK、IL-3、GM-CSF プロモーター (類似性による) など、多数のエンハンサーとプロモーターのコアサイト 5'-PYGPGGGT-3'に結合します。MYST4 依存性転写活性化を阻害する。PTM: リン酸化; おそらく MAP キナーゼ (MAPK) によって (類似性に基づく)。アイソフォーム 3 は Ser-340 がリン酸化される。類似性: 1 つの Runt ドメインを含む。サブユニット:  $\alpha$  サブユニットと  $\beta$  サブユニットのヘテロ二量体。HIVEP3 と相互作用する (類似性に基づく)。 $\alpha$  サブユニットは単量体として、また Runt ドメインを介して DNA に結合する。DNA 結合はヘテロ二量体化によって増加する。G22P1 (Ku70) および XRCC5 (Ku80) と相互作用する。MYST3 および MYST4 と相互作用する。組織特異性: 骨芽細胞で特異的に発現する。

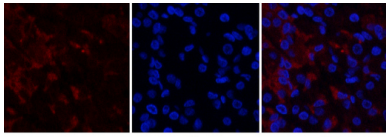
## 研究分野

その他の因子、エピジェネティクスと核シグナル伝達、転写、転写因子、幹細胞、間葉系幹細胞、骨形成、発生生物学、器官形成、骨格発達、骨、神経科学、発達

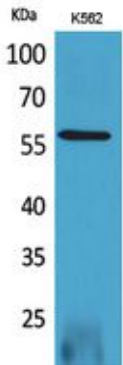
## 画像データ



RUNX2 抗体を使用した K562 細胞の溶解液のウエスタン プロット分析。



ヒト胃組織の免疫蛍光染色。1, RUNX2 ポリクローナル抗体（赤）を 1:200 に希釈（4℃、一晚）。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈（室温、50分）。3, 図 B: DAPI（青）10分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



RUNX2 ポリクローナル抗体を用いた K562 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。